

		人材育成の目的	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）
薬学教育部	教育部全体				本教育部は「創薬・生命薬科学専攻」及び「医療薬学専攻」からなり、学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学および衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家および生命科学者の育成を目指しています。本教育部「創薬・生命薬科学専攻」では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野および環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標としています。一方、本教育部「医療薬学専攻」では、臨床の現場で薬の本質を深く理解した医療の担い手として医薬品の適正使用に貢献できる高度な指導的臨床薬剤師の育成、疾病の予防及び治療に貢献する臨床研究者の育成を目標としています。
	博士前期課程	<p>創薬・生命薬科学専攻</p> <p>学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学および衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家および生命科学者の育成を目指す。特に、創薬・生命薬科学専攻博士前期課程では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野および環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標とする。</p>	<p>1.学位授与の要件</p> <p>当該課程の標準修業年限2年以上在学し、所定の単位（必修全コース共通から14単位、必修所属するコースから12単位、選択全コース共通から8単位、合計34単位以上）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験（口頭試問など）に合格すること。 ただし、在学期間については、優れた研究業績をあげた者は、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。（修業年限特例の適用） 学位審査は、主査1名、副査2名以上により構成される研究指導・審査委員会により行われ、その報告および最終試験結果を受けて教育部教授会によって最終判定される。</p> <p>2.修得すべき知識・能力</p> <p>1.高度な専門的知識・技能及び研究力 ・社会で薬の専門家の高度専門職業人として即戦力となりうる特定分野の知識・技能を有している。 ・自らの研究の成果と意義を科学的かつ論理的に発表・議論できる。</p> <p>2.学際的領域を理解できる深奥な教養力 ・各コース特定の専門分野に加えて、専門分野にとらわれない分野横断的な知識を有している。 ・倫理観と環境マネジメント能力を身に付けている。</p> <p>3.グローバルな視野と行動力 ・国際社会に積極的に貢献できる研究を実施できる。 ・英語での基礎的なプレゼンテーション・コミュニケーション・論文作成ができる。</p> <p>4.地域社会を牽引するリーダー力 ・創薬科学や生命科学を通して、地域に積極的に貢献できる研究を立案できる。 ・地域の問題を提起し、解決する基礎的能力を身に付けている。</p>	<p>1.全体の方針</p> <p>社会が求める創薬・生命科学のスペシャリストを養成するため、4コースを導入し、各専門分野に特化した知識・技能に関連した科目を重視したカリキュラムを提供する。4コースの特徴や目指す人材像は、次のとおりである。 ・医薬品の体内動態評価、製剤化および薬物送達を行うドラッグデリバリーコース（医療系創薬研究者の養成） ・医薬品の探索を行うバイオファーマコース（生物系創薬研究者の養成） ・医薬品のターゲットを発見し、医薬品の設計・合成を行うメディシナルケミストリーコース（化学系創薬研究者の養成） ・発生学や遺伝学などの生命資源学を専門基盤とし、創薬についての要素も含むライフサイエンスコース（生命科学研究者の養成）</p> <p>2.「修得すべき知識・能力」への対応</p> <p>1.「高度な専門的知識・技能及び研究力」 独自の発想力、探究心、創薬マインドを育みながら、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、生命科学を中心とした基盤的学問における知識・技能を基礎として、自らの専門領域において卓越した研究能力を発揮できる人材の養成をするため、4コース制の基、各専門分野に特化した知識・技能に関連する科目を多く取り入れたカリキュラム編成を行った。</p> <p>2.「学際的領域を理解できる深奥な教養力」 特定の専門領域だけでなく、より俯瞰的かつ実践的な人材や国際化に対応できる人材を養成するため、各コースを担当する教員が連携して演習形式の授業を行うとともに、多様なシンポジウム・講演会・セミナーに参加し、自分の専門分野以外の研究動向についての知識を増やし、討論を通して理解を深めるための授業科目を配置する。</p> <p>3.「グローバルな視野と行動力」 優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、国際社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、英語でのプレゼンテーションや論文作成のための演習などの授業科目を導入する。</p> <p>4.「地域社会を牽引するリーダー力」 優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、生命倫理学などの授業科目を導入する。</p>	<p>薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究および最先端の研究を通して薬学および生命科学の将来を担う高質質な人材を育成するため、本教育部では次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深い人間愛と国際性を涵養できる学生 ・科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生 ・多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生 ・自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生 ・問題提起能力および問題解決能力に優れた学生
	博士後期課程	<p>創薬・生命薬科学専攻</p> <p>学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学および衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家および生命科学者の育成を目指す。特に、創薬・生命薬科学専攻博士後期課程では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野および環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標とする。</p>	<p>1.学位授与の要件</p> <p>当該課程の標準修業年限3年以上在学し、所定の単位（必修全コース共通から14単位、必修所属するコースから2単位、合計16単位以上）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験（口頭試問など）に合格すること。 ただし、在学期間については、優れた研究業績をあげた者は、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。（修業年限特例の適用） 学位審査は、主査1名、副査2名以上により構成される研究指導・審査委員会により行われ、その報告および最終試験の結果を受けて薬学教育部教授会での審議によって最終判定される。</p> <p>2.修得すべき知識・能力</p> <p>1.高度な専門的知識・技能及び研究力 ・社会で薬の専門家の高度専門職業人として即戦力となりうる特定分野の深い知識・技能を有している。 ・研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を有している。 ・自らの研究の成果と意義を国際的な水準で発表・議論できる。</p> <p>2.学際的領域を理解できる深奥な教養力 ・幅広い知識・技能を持ち、かつ専門分野にとらわれない高度な知識を持っている。 ・特定の専門領域だけでなく、より俯瞰的かつ実践的な考え方ができる。 ・高い倫理観と優れた環境マネジメント能力を身に付けている。</p> <p>3.グローバルな視野と行動力 ・国際社会に積極的に貢献できる研究を自ら発案し、実施できる。 ・国際学会・国際インターナショナル・海外留学を通して、国際的な活動力を身に付けている。 ・英語での優れたプレゼンテーション・コミュニケーション・論文作成ができる。</p> <p>4.地域社会を牽引するリーダー力 ・創薬科学や生命科学を通して、地域に積極的に貢献できる研究を立案・実施できる。 ・地域の問題を提起し、解決する能力を身に付けている。</p>	<p>1.全体の方針</p> <p>社会が求める創薬および生命科学の先導的・高度専門職業人（研究者・技術者）のエキスパートを養成するため、4コース制（ドラッグデリバリー、バイオファーマ、メディシナルケミストリー、ライフサイエンス）を導入し、創薬・生命科学に関する高度な専門的知識・能力に加えて、これらを総体的・統合的に身に付けさせるためのカリキュラムを実施する。すなわち、専門分野における自立した研究者としての能力を養成する特別実験科目・コース科目（課題実習）、社会が求めるグローバルリーダーとしての人材を養成する研究型インターナショナル科目、より俯瞰的かつ実践的な人材や国際化に対応できる人材を養成する演習科目などを提供する。</p> <p>2.「修得すべき知識・能力」への対応</p> <p>1.「高度な専門的知識・技能及び研究力」 創薬科学・生命科学領域の各専門分野における先端研究を自ら推進できる高度専門職業人（研究者・技術者）を養成するため、専門分野における自立した研究エキスパートとしての能力を養成する特別実験科目や課題実習科目に加えて、社会が求めるグローバルリーダーとしての人材養成を目的に、研究型インターナショナル科目などのカリキュラムを提供する。</p> <p>2.「学際的領域を理解できる深奥な教養力」 特定の専門領域だけでなく、より俯瞰的かつ実践的な人材や国際化に対応できる人材を養成するため、各コースを担当する教員が連携して演習形式の授業を行うとともに、多様なシンポジウム・講演会・セミナーに参加し、自分の専門分野以外の研究動向についての知識を増やし、討論を通して理解を深めるための授業科目を配置する。</p> <p>3.「グローバルな視野と行動力」 優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、国際社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、英語でのプレゼンテーションや論文作成のための演習などの授業科目を導入する。</p> <p>4.「地域社会を牽引するリーダー力」 優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、生命倫理学などの授業科目を導入する。</p>	<p>薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究および最先端の研究を通して薬学および生命科学の将来を担う高質質な人材を育成するため、本専攻では次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深い人間愛と国際性を涵養できる学生 ・科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生 ・多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生 ・自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生 ・問題提起能力および問題解決能力に優れた学生 ・創薬科学・生命科学やその基礎となる科学に強い関心をもち、医薬品の研究者・開発者、生命科学研究者あるいは教育者など、創薬科学や生命科学を通して社会に貢献しようという意欲を有する学生
博士課程	<p>医療薬学専攻</p> <p>学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学および衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家および生命科学者の育成を目指す。医療薬学専攻では、臨床の現場で薬の本質を深く理解した医療の担い手として医薬品の適正使用に貢献できる高度な指導的臨床薬剤師の育成、疾病の予防及び治療に貢献する臨床研究者の育成を目標とする。</p>	<p>1.学位授与の要件</p> <p>当該課程の標準修業年限4年以上在学し、所定の単位（臨床薬学コースについては、共通科目から必修18単位、選択必修2単位以上、コース科目1から選択必修8単位以上、コース科目2から必修2単位、選択必修2単位以上とし、医療薬科学コースについては、共通科目から必修18単位、選択必修6単位以上、コース科目から必修4単位、選択必修4単位以上の各コース合計32単位以上）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験（口頭試問など）に合格すること。 ただし、在学期間については、優れた研究業績をあげた者は、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。（修業年限特例の適用） 学位審査は、主査1名、副査2名以上により構成される研究指導・審査委員会により行われ、その報告ならびに最終試験の結果を受けて薬学教育部教授会での審議によって最終判定される。</p> <p>2.修得すべき知識・能力</p> <p>1.高度な専門的知識・技能及び研究力 ・研究者として自立して活動し、専門業務に従事するために必要な高度な知識を有している。 ・高度な指導的臨床薬剤師および臨床研究者となりうる優れた技能および研究力を有している。</p> <p>2.学際的領域を理解できる深奥な教養力 ・専門分野にとらわれない分野横断的な高度な知識・技能を有している。 ・臨床および企業等の現場での実践的能力を身に付けている。</p> <p>3.グローバルな視野と行動力 ・自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論できる。 ・自らが国際共同研究の展開に寄与できる。</p> <p>4.地域社会を牽引するリーダー力 ・高い倫理性と優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域社会に積極的に貢献できる。 ・医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立って地域社会に貢献できる。</p>	<p>1.全体の方針</p> <p>医療・健康・環境やその基礎となる科学に強い関心を持ち、高い問題提起能力および問題解決能力を修得し、研究者・教育者あるいは薬剤師など医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する人材を育成するため、主に先導的薬剤師を養成する「臨床薬学コース」および主に先導的医薬品開発研究者や薬学系教員を養成する「医療薬学コース」の2コース制を導入し、各々の人材養成目標に対応するカリキュラムを提供する。さらに、「地域社会に開かれた大学院」として、社会人に門戸を開き、薬剤師の資質向上を目指した生涯教育を実施する。</p> <p>2.「修得すべき知識・能力」への対応</p> <p>1.「高度な専門的知識・技能及び研究力」 社会が求める実践的な高度専門職業人の養成ならびに各々の人材目標に対応するため、2コース制を導入し、生命倫理学、論文作成スキル、博士論文研究などの両コースに共通するコース共通科目およびコース独自のコース科目（講義、演習、実習）を提供する。さらに、「臨床薬学コース」には社会が求める即戦力としての先導的薬剤師養成を目的として、病院または薬局実習のいずれかを実施する。</p> <p>2.「学際的領域を理解できる深奥な教養力」 専門分野にとらわれない分野横断的な学修ができるカリキュラムを実施し、常に未知の分野の研究にも、果敢に挑戦できる素地を形成する。</p> <p>3.「グローバルな視野と行動力」 自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論し、必要に応じて、自らが国際共同研究の展開に寄与できる能力を養うための科目を提供する。</p> <p>4.「地域社会を牽引するリーダー力」 自らの研究の成果と、人や自然や社会との共生のために、強い責任感と高い倫理性をもって、自らの研究を深化させていく力を育てる。さらに、「地域社会に開かれた大学院」として、社会人に門戸を開き、薬剤師の資質向上を目指した生涯教育を実施する。</p>	<p>薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究および最先端の研究を通して薬学および生命科学の将来を担う高質質な人材を育成するため、本専攻では次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深い人間愛と国際性を涵養できる学生 ・科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生 ・多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生 ・自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生 ・問題提起能力および問題解決能力に優れた学生 ・医療・健康・環境やその基礎となる科学に強い関心を持ち、研究者・教育者あるいは薬剤師など医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する学生を求めます。 	